

木更津工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	国文学	
科目基礎情報							
科目番号	0226			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気電子工学科			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	プリントを配布						
担当教員	加田 謙一郎						
到達目標							
①初歩的な漢文の書き下し文を読解できる。また初歩的な漢文に関して、書き下し文を作成することができる。 ②空海の文芸作品の特徴を指摘できる。また空海の思想の特徴を理解し、指摘できる。 ③中中国文学における漢詩文の位置付けができる。また平安初期の歴史の流れを理解し、簡明に述べるができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	初歩的な漢文の書き下し文を読解できる。また初歩的な漢文に関して、書き下し文を作成することができる。			初歩的な漢文の書き下し文を読解できる。		初歩的な漢文の書き下し文を読解できない。	
評価項目2	空海の文芸作品の特徴を指摘できる。また空海の思想の特徴を理解し、指摘できる。			空海の文芸作品の特徴を指摘できる。		空海の文芸作品の特徴を指摘できない。	
評価項目3	中中国文学における漢詩文の位置付けができる。また平安初期の歴史の流れを理解し、簡明に述べることができる。			中中国文学における漢詩文の位置付けができる。		中中国文学における漢詩文の位置付けができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	空海に関する様々な漢文テキストを読解し、当時の歴史なども視野に入れて、現代への合わせ鏡としての「空海の思想」に対して自分の意見を持つことを目標とする。 空海の残した漢文を読み解くことによって、ものの捉え方、感じ方、考え方を深め、ぜひ自らの問いを発見してほしい。						
授業の進め方・方法	①プリントを使って授業を行う。 配布するプリントは必ずファイルし、復習できるようにすること。また、授業内容はしっかりとメモを取ること。 ②授業のなかで課題を提示し、小レポートを課す。授業内容のポイントを押さえるためにしっかりと取り組むこと。 この小レポートも成績に反映されるので、未提出がないように気をつけること。また質問があれば、ささいなことでも必ず書くこと。 ③小レポートの講評と解説、質問への回答も行うので、レポートには積極的に取り組むこと。 ④中間試験は行わず、前期期末にレポートを課す。						
注意点	授業内容を通して、自分自身の振り返りをしてほしいと考える。漢文からは離れるが、そのための作文方法等にも随時触れる。 漢文を単に昔の文章と捉えて読み流すのではなく、その読書体験をきっかけにして、自らの感覚を研ぎ澄まし、思考を深めることを心掛けてほしい。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の進め方、レポートの取り組み方等を把握する。また、自分自身を振り返る契機としての作文方を理解する。		
		2週	漢文訓読法（１）		漢文訓読法の基礎を理解する。		
		3週	漢文訓読法（２）		故事成語に触れ、漢文訓読法の基礎を身につける。		
		4週	「秋の日、神泉苑を観る」（１）		京都の名所神泉苑を歌った漢詩に触れ、その歴史的な変遷を理解する。		
		5週	「秋の日、神泉苑を観る」（２）「雨を喜ぶ歌」		雨乞いの際に歌われた漢詩に触れ、当時の人々の「雨」に対する意識を理解する。		
		6週	「山中に何の楽しみか有る」		空海の思想（密教）の基礎に触れ、その要点を理解できる。		
		7週	「徒に球を懐く」		空海の思想（密教）の基礎に触れ、その要点を自分の言葉で述べることができる。		
		8週	振り返り（１）		前回まで学んだ内容から、特に興味を持ったことに関して、800字程度の作文を書くことができる。		
	2ndQ	9週	「綜芸種智院の式 并に序」（１）		日本最古の庶民の学校「綜芸種智院」を開いた空海の言葉に触れ、すべての者が学ぶことの意義について考えを深める。		
		10週	「綜芸種智院の式 并に序」（２）		同上。読みを進めることができる。		
		11週	「綜芸種智院の式 并に序」（３）		同上。読みを進めることができる。		
		12週	「綜芸種智院の式 并に序」（４）		すべての者が学ぶことの意義について考えたことについて、1200字程度の作文を書くことができる。		
		13週	「筆を奉獻する表」「東宮に筆を献ずる啓」		テクノクラートでもあった空海の、理工系の記事を読み、その形を身につける。		
		14週	「元興寺の僧中環が罪を赦されんことを請ふ表」		非寛容の現代から、為政者へ寛容を説く空海の論理に触れ、現代社会を捉えなおすことができる。		

		15週	振り返り（２）	前回まで学んだ内容から、特に興味を持ったことに関して、A4用紙2枚程度のレポートにまとめることができる。			
		16週	レポート作成	空海思想について、前回の作業を継続し、レポートを完成させる。			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0